

情報交換会では各社の取組内容や課題をシェア。参加者はみな同じような悩みに共感して盛り上がっていた。



市 中小企業30社が参加 豊健康経営セミナー

豊田市健康づくり応援課が先月27日、市内の中小企業30社を対象に「健康経営セミナー・情報交換会」を開催した。

健康経営とは、企業が従業員等の健康管理を単なる福利厚生ではなく「経営上の重要課題」と捉えて戦略的に投資・実践する手法のこと。社員が心身ともに健康に働ければ、生産性やモチベーションの向上、さらには若者の離職や高齢化に伴う労働力減少の歯止めにもつながるといった考えだ。

東京海上日動火災保険から講師を招いての講話では、経済産業省が推奨する「健康経営優良法人認定制度」の申請方法や認定要件等を紹介。その後の情報交換会では、参加者が小グループに分かれて社内の取組の中でうまくいっていることや課題になっていることをシェアした。

最後に参加企業を代表して、(株)メック(御船町)専務取締役の白柳貴裕さんと、近藤商事土木(四郷町)社長の近藤正臣さんが自社の健康経営の取組を発表した。メックでは若い世代にも届きやすいと

食生活改善と身体づくりを取組の中心にしており、野菜おかずとスープの無料提供(月3回)やサラダ・カットフルーツ用冷蔵庫の設置(一品300円で会社)が200円負担、フィットネスクラブ会費の半額補助などを行っているという。

近藤商事土木は健康経営12年目。「地域と一緒に取り組む会社」として一昨年から地元高校の文化祭や地域イベントでも健康づくりのPRをしており、健康づくりの輪を地域に広げることや災害避難時に大切な「顔の見える関係づくり」につなげたいと

締めくくった。

市は昨年策定した「健康づくり豊田21計画」にこれまで行政の取組が届きにくかった若者や働く世代等の健康づくりを重点に掲げ、このセミナーのような活動を通して企業の健康経営を後押ししている。



【新見智恵美】

社員の健康は生産性アップの経営資源！